

# バリ通信

祝！WBC優勝・緊急特別号



2305号

漫画の世界！ いや、漫画以上の脚本やないか！

いや、しかしまあ盛り上がりましたねえ、今更ですが野球のWBC、ワールド・ベースボール・クラシックですよ！

『あれ？丹下はサッカーが好きなんじゃないの？サッカーネタが尽きた？ニワカさん？』と思った方もいらつしやるかと思えますが、私、サッカーの次に好きなスポーツが野球なのであります。といっても本格的にプレーをしたことはなく、せいぜい30歳過ぎにソフトボールを2、3年した事があるだけです、観戦するのは大好きなのです。ちなみにデータをみるのも好きで、NHKで放送されている変態(いい意味で)野球番組『球辞苑』を毎回録画して見てるくらいです。

以前書いたかもしれませんが、小学校時代に兵庫県宝塚市に6年間住んでいた時に、阪急ブレーブス子供会に入会して、年会費たったの1500円で公式戦がタダで観れるというシステムをフル活用して、電車で数分で到着する西宮球場に足しげく通っていたのであります。おかげでリーグに詳しくなり、愛媛に戻って中学生の時に初代ファミスタという野球ゲームが生まれて『なんでお前はリーグの選手をそんなに知ってるんや？』と言われていました。今はどの球場も2万人以上のお客さんが入っています、昔のリーグは本当に人気無かったですからね。

野球の何が好きかっていうと、1球毎の問合いか、駆け引きとかがタマらんですよ(笑)

バリ通信は  
過去に

(有)FORZA

愛媛日産自動車(株) 勤務時代

公益社団法人 今治青年会議所

今治商工会議所青年部

を通じて面識のある大切な方にお送りしております。

なので、今シーズンからメジャーリーグで始まった新ルール『ピッチクロック』という打者と投手の時間制限は、その間合いか駆け引きが損なわれるので、どうにも気に入らないです(苦笑)、試合時間が長いという批判があるから始まったルールですが、アメリカで受け入れられたら日本でも導入されるのでしょうかねえ……。

で、本題のWBCですが、超一流のメジャーリーグ投手こそ契約の関係で出場していませんでしたが、普通に先発ローテーションに入ってる投手は出ていましたし、何と言ってもアメリカのキャプテン・トラウト選手が声掛けして、同世代の超一流野手たちが出場を決めたおかげで、MVP・ホームラン王・首位打者などの経験者とか、それこそ昔のファミスタのメジャーリーガーズみたいな打線になっていて、本当の世界一決定戦っぽくなっていたので、今年一番楽しみなスポーツイベントと待ち望んでいました。(ちなみにラグビーワールドカップとサッカー女子ワールドカップも今年で、東京オリンピックの野球で日本は金メダルを取りましたが、メジャーリーガーは参戦していません。アメリカの4番バッターはベイスターズのオースティン選手で、クローザーはヤクルトのマクガフ投手でした)

第一ラウンドの中国・チェコなんかはボロ勝ちしそうなイメージですが、やはり日の丸を背負うプレッシャーは半端ないんでしょうね、どの試合も序盤は結構苦戦していましたね。でも、先発ピッチャーの2巡目や2番手3番手のピッチャーのレ

ベルが落ちると一気に畳み掛けて最終的には大差で勝っていたし、過去のオリンピックで苦杯をなめていたオーストラリアにも完勝、そして過去のWBCで優勝した際にも予選リーグなどで何度も負けていた韓国には何と13対4という大差で完勝し（過去のWBCは、負けてもまた違うブロックに回る謎システム『ダブルイリミネーションシステム』だったので、負けた相手と再戦する事があって、あのイチローの放送禁止用語発言や決勝タイムリー、福留の代打ホームラン等のドラマが生まれたのです）、初めて無敗で準々決勝へ進出、準々決勝はサッカークのイメージしか無いイタリアと対戦し、大谷のチームメイト（つまりメジャーリーガー）もいたらしいけど9-3で完勝、ここまでは正直なところ痺れる展開が少なかったのですが、準決勝からはまあ痺れまくりの試合展開でしたね。

準決勝と決勝は日本時間の朝からの試合でしたが、自営業の特権を生かし、試合の時間には一切用事を作らないように調整していたので、準備万端の開店休業状態にて事務所でアマゾンプライム観戦をしておりました（笑）。

細かい内容は皆さん散々ニュースでご覧になったかと思うので割愛しますが、村上選手のサヨナラヒットには伏線があったのです。

吉田選手の同点3ランホームランの時に、実は山川選手が代打の準備をしていたので、ホームランでなければ村上選手に代打を送られていた可能性がありました、その後の展開で、岡本選手に代走が送られて、山川選手は8回のチャンスに甲斐選手の代打で（1点差に迫る犠牲フライ！）出たので、あの最後の打席まで打席に立ち続けられたようです。で、あの9回の攻撃ですよ、大谷選手が初球を打って、印象的なシーンで何度も観たヘルメットを投げ捨てながらの激走の末、二塁で『カモン！』と珍しく雄たけび！

反撃ムードは最高潮の中、吉田選手は冷静に四球を選び、栗山監督は吉田選手に変えてサヨナラのランナーとなる俊足・周東選手を代走で投入して勝負に出ます。この試合、3三振と良いところがあったため、解説者は『村上で勝負か、代打牧原で送りバントでノーアウト2・3塁にするか』と話していましたが、栗山監督は迷わず村上で勝負、そしてあのサヨナラヒットですよ。

日本シリーズなどの短期決戦では、調子の上がらない『逆シリーズ男』をどうするかが話題になりますが、痺れる場面で任せた栗山監督も、期待に応えた村上選手も本当に素晴らしかった！

前日にウチの奥さんが『なんであんなに打たんのに替えるの？』と聞いていましたが『周りが打っていないなら短期決戦なので替える話もありやけど、周りが打っていて点は入ってるし、三冠王を交代させれんわい！』と解説者ぶって吠えていた私の顔も立ちました！ありがとう村上選手！（笑）

で、書くスペースも無くなってきたので決勝は端折って書きませんが（笑）、ダルビッシュ投手が8回に打たれたことで、9回にアメリカのキャプテンで尚且つ盟友のトラウトまで打席が回ってくるドラマチックな展開、初代ファミスタの江川なみに曲がる『スローパー』で三振に打ち取り、帽子とグラブを放り投げてのガッツポーズ、打者として打率4割3分5厘、1本塁打、8打点、投手として2勝1セーブ、防御率1.86、ただだけスローパーな選手を書く漫画でも、こんな活躍を書いたら『そんなことが現実に起こる訳ないやん！』となる所をやり遂げて、しかも高校生の時の目標で、『WBCでMVPを獲る』と書いていたのも実現、本当に漫画以上のストーリーですわ・・・翔平君、ウチの可愛い娘を嫁に貰ってくれんかなあ、まだ高校1年生やけど（笑）